



上関原発海上ボーリング調査 中電社長、改めて実施意向

中国電力の清水希茂社長は14日、一時中断している上関原発建設予定地での海上ボーリング調査について「安全第一で進めたい。地元理解を得るために話をさせてもらい、調査を実施したい」と述べ、改めて県に占有許可を申請し同調査を実施する意向を示した。

上関町の柏原重海町長や西哲夫町議会議長らへの新年のあいさつで町役場を訪れ、記者団の取材に応えた。同調査は原発の新規制基準に対応するため、活断層の有無を調べるのが目的。中電は昨年11月から準備作業を進める予定だったが、

反対派住民の抗議活動や悪天候などで12月に中断を決定した。

清水社長は、占有許可の再申請の時期については「できるだけ早い時期に」として発言を避けた。上関原発建設計画については「二酸化炭素排出削減などの議論の中で、原発の必要性が高まる」と話した。清水社長は非公開放で柏原町長や西議長らと面会した。柏原町長は「上関原発関係の話は全くなかった」と話した。(寺田昌行)

上関原発の建設 あらためて意欲

町長訪問の中電社長は14日、上関町を訪れ、準備工事が中断したままの上関原発について「必要性はさらに高まる」と建設に向けた意欲をあらためて示した。同日の柏原重海町長への年始あいさつ後、報道陣の取材に応じた。

清水社長は、昨年の国連気候変動枠組条約第25回締約国会議(COP25)の議に際し「CO2削減目標は昨年10月に公表された。2050年までに地球温暖化を抑制する必要がある」と述べ、上関原発の再稼働を訴えた。



調査、早期再開の意向

中国電力(広島市)海上ボーリングで 上関町長に面会



上関町訪問後、取材に応じる中国電力の清水社長

中国電力(広島市)の清水希茂社長は14日、上関町役場を訪れ、柏原重海町長に新年のあいさつをした。清水社長は面会後、役場前で取材に応じ、上関原発建設予定地での海上ボーリング調査について「できるだけ早い時期に再開したい」と述べ、調査に必要な海域の占有許可を早期に再申請する意向を改めて示した。

中国電力は2019年7月、6カ月の海上ボーリング調査後、埋め立て工事を3年で完成させるとして、原発建設予定地海域の公有水面埋め立て免許について、県から3年6カ月の再延長を許可された。

しかし、海上ボーリング調査は準備作業にも入れず中断して

毎日

【松本昌樹】